

建設業 化学物質に係る危険性リスクアセスメント

作業所名		事業者名											
作業		作業区分（定常・非定常）		実施年月日		実施者		承認		確認		作成	

作業名	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害＊1	既存の災害防止対策	リスクの見積り			リスク低減対策（案）	残留リスクの見積り			対応措置		備考
			表① 物理化学的危険性（一次評価）	表② 燃焼の三要素の有無と、化学物質の特性値と施工環境の比較（二次評価）	リスクレベル		表① 物理化学的危険性（一次評価）	表② 燃焼の三要素の有無と、化学物質の特性値と施工環境の比較（二次評価）	リスクレベル（表①＋表②）	提案実施日	次年度検討事項	

表① 物理化学的危険性（一次評価）

危険性の分類（SDS・GHS）	一次評価の評点（リスク値）			
	6	4	2	1
爆発物	等級1.1-1.3、等級1.5	等級1.4	等級1.6	
引火性／可燃性ガス	区分1	区分2		
エアゾール	区分1	区分2		
酸化性ガス		区分1		
高压ガス	圧縮ガス、液化ガス、溶解ガス	深冷液化ガス		
引火性液体	区分1	区分2	区分3	区分4
可燃性固体		区分1、区分2		
自己反応性化学物質	タイプA-B	タイプC-F	タイプG	
自然発火性液体	区分1			
自然発火性固体	区分1			
自己発熱性化学物質	区分1	区分2		
水反応可能性化学物質	区分1	区分2、区分3		
酸化性液体		区分1、区分2、区分3		
酸化性固体		区分1、区分2、区分3		
有機過酸化物	タイプA-D	タイプE-F	タイプG	
金属腐食性物質		区分1		

表② 燃焼の三要素評価（二次評価①）

〈燃焼の三要素の有無〉

無	有
表④のリスクレベル1	表③の特性値と施工環境温度の比較へ

表③ 化学物質の特性値と施工環境の比較（二次評価②）

〈施工環境温度と、使用する化学物質の特性値（沸点、引火点、自然発火温度）を比較〉

施工環境温度(℃)	≧	沸点(℃)	該当有無	該当有の場合 表①の評点を、1ランクアップ
	≧	引火点(℃)	該当有無	
			有・無	
	≧	自然発火温度(℃)	該当有無	該当有の場合 表①の評点を、2ランクアップ
			有・無	
	上記いずれにも該当せず			表①の評点のランクアップ「無」

表④ 想定される爆発・火災発生の可能性

リスクレベル	想定される爆発・火災発生の可能性
6	可能性が極めて高い
4	可能性が高い
2	可能性がある
1	ほとんど発生しない